

相国寺は上古出雲寺とて、伝教大師の草創し給ふ天台の仏刹なり。永徳年中足利義満公禅院として、夢窓国師を始祖とし、妙葩禅師を二世とす。封域に十景あり、惣門の前を般若林といふ、排門を妙莊嚴域と号け、山門を円通といふ、覚雄宝殿とは仏殿なり。前の川を龍淵水と号し、蓮池を功德池といひ、天界橋を朶す。転輪蔵を祝釐堂といふ。洪音楼は鐘楼にして、此鐘は南都元興寺の鐘なり、中頃鬼神出てこれを撞といふ、故に人恐れて撞ずとなん、相国義満公の命によつて此寺に掲る。「薩戒記」護国廟は八幡宮を鎮祭て当山鎮守とす。塔頭林光院には鶯宿梅あり、是はむかし西京紀貫之の家にありしを、清涼殿の前に植られんとて求給ひしに、貫之の娘おしみて歌よみければ其俣かへし給ふ。普光院には黄門定家卿の墓あり。松鷗軒には法然水あり、こゝは原賀茂の神宮寺にして今の百万遍の旧地なり。「当山開山堂」の前の林泉、鴨川の支流にて風色絶妙なり、むかし藤木加賀守の作りしといふ。近年天明の回祿に罹れば林泉大に荒廃す、故に図する事能はず」当寺什宝は縄目文珠雪澗の筆、砥平石の讃なり、世に斎喰文珠といふ。啼鶴の二幅対は士廉の筆、昔唐土より渡りし時三度まで啼しとかや。呂輝の花鳥、趙子昂の墨蹟、松風の鏡、小狐の鏡、太宗皇帝の書、陸信忠筆の十六羅漢、絶海和尚の十牛の頌、古法眼元信の文珠、其外数百品あり、こゝに略す。